



選考委員
特別賞

身の回りのやさしさ

大阪府立水都国際中学校

2年

ひびや さき
日比谷 咲

「わあ、こんなに大変だったんだ。」

私は高齢者や障がい者の視点に立って、生活の大変さを感じた。でも、それと同時にどんな人でも使いやすく、生活しやすい様々な配慮がされているな、とも感じた。

私は今回、大阪メトロの西大橋駅を調査した。まず、地下に降りる必要がある。階段とエスカレーターの隣にエレベーターが設置してあった（写真1）。エレベーターの中は、正面に大きな鏡があり、ボタンの隣には点字があり、手すりもついていた（写真2・3）。車いすやベビーカーを使っている人、高齢者、視覚障がい者など、誰もが乗り降りできるように工夫されていた。これは私の住んでいるマンションのエレベーターにも導入されている仕組みだったため、少し親近感が沸いた。そしてエレベーターを降りると、改札までの道のりが点字ブロックで表されている（写真4）。試しに少し歩いてみると、靴の上からでもデコボコを確認することができた。駅を利用する人たちはみんな点字ブロックをよけて歩いていた。本当に必要としている人に対する気遣いも大事だと感じた。

改札に到着すると、一つだけ横幅が広い改札を見つけた（写真5）。これも工夫の一つ。大きな荷物を持っている人やベビーカーの人は普通の改札では狭くて通りにくい。そこで調べてみると、一般的には自動改札機の幅は55 cmから59 cmと決まっている。だが、2006年に定められたバリアフリー新法に

より、公共交通機関である電車の駅に幅90 cmから95 cmの改札が設けられるようになったそうだ。今となっては様々な駅でこのワイド改札が導入されていて、生活がより便利に進化している。

駅のホームに着くと、転落防止ドアに電車のドア案内があるのに気づいた。文字の下には点字が付いていて、視覚障がい者への配慮が見られた（写真6）。また、電車が到着するときにホームに流れる音楽も目が見えない人のための工夫だ。上り線と下り線でメロディが違い、聞いてすぐわかるようになっている。調べてみると、大阪メトロの接近・発車メロディは全線で違っている。すべてオリジナルメロディで、2024年には中央線のメロディがリニューアルされるそうだ。

電車が到着し、私は乗車した。電車の中には、車いすやベビーカーのための優先スペースがある（写真7）。手すりや車いす固定器具なども付いていて、安全に電車で移動するための仕組みが整えられていた。

このように、誰もが使いやすく、便利で生活しやすい環境を作るために様々な工夫が施されている。普段は気づかないことも、今回の調査でたくさん学ぶことがあった。困っている人を見つけたら、自ら声をかけたり、困ったときは一人で我慢せず他の人の力を借りたりして、お互いに協力し合って生活していくことが最も重要だ。これから、もっともっと大阪市がやさしさでいっぱいになってほしい。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7